

## ＜今日の説教のポイント 創世記3章＞

聖書が示すキリストに至る過程。なぜイエス・キリストが必要なのか？

### 1 創世記3章は罪の起源を示す歴史書ではなく、罪の事実を示す物語。

創世記3章は最初の間が蛇に騙されて罪を犯す話、そのせいで私たちは罪を犯すようになった、とと思っている人は多いでしょう。だとすると、私たちが犯す罪は彼らに責任があるのでしょうか。そうではありません。自分の罪の責任を誰かのせいにしてはなりません。創世記3章は罪の起源を示す歴史書ではなく、罪の無い人は一人もいないという事実を示す物語なのです。では、罪とは何なのでしょう？

### 2 罪とは、私たちが信頼して下さる神様に背を向けて生きること。

神様は人間にエデンの園を与え、善悪を知る木以外のすべての木から取って食べていいと言われました(2:15-16)。人間に大きな自由と権利を与え、人間を信頼されたのです。しかし、人間はその神様の信頼に応えるより誘惑にかられ、「それを食べると死んでしまうから、決して食べてはならない」(2:17)という神様の忠告を聞かずに食べたのです。神様を信頼せず、神様に背を向けて、自分の思いを先行させて生きる人間の姿。これが誰一人「私は違う」とは言い切れない私たちの姿であり、創世記3章を読んで気づかなければならないことなのです。

### 3 アダムとエバは死ななかつた。神様が言われたことと違う？

神様は食べると死ぬと言われたのにアダムとエバは死にませんでした。ここに見るべきは、言ったことを違える神様ではなく、裁くに遅く救うに早い神様です。どうしようもない私たちにあきれ、見捨て、裁かれることに早い神様ではないのです。それは、エデンの園を去らせられる物語(3:20-24)にも見られる、聖書全体が示す主題でもあります。

### 4 問題は私たちにあり。その難敵から救って下さるのがイエス様！

蛇を過大視してはなりません(ブルグマン)。罪は私たち自身が神に背を向けて生きようとする、私たち自身の問題だからです。それは手強い相手ですが、その問題解決のために神様は唯一の神様に背を向けずに生きた罪なき人、イエス・キリストを送って下さったのです(ローマ5:11-21)。私たちの罪、そしてその救いのために神様が与えて下さったイエス様。それらの意味をさらに待降節の中で考えて行きます。